

高校生エッセイ  
コンテスト  
「審査員特別賞」受賞  
松永綾香さん

昨年夏、全国の高校生を対象に実施された第7回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト(主催日本福祉大学)で、阿蘇高校3年の松永綾香さんが、811通の中から見事「審査員特別賞」に輝きました。阿蘇の人を誇りに思う気持ちが描かれたエッセイですのでご紹介します。



熊本県立阿蘇高等学校  
3年 松永 綾香さん

テーマ わたしが暮らすまち

「誇るべきもの」

四季折々で様々な表情を見せる山々に囲まれた雄大な阿蘇。私は生まれてから十七年間、ずっとこの場所です。暮らしています。私にとっては当たり前のようにある綺麗な水や川、虫や動物、澄んだ空気。それらを体感するために、連日たくさん観光客が訪れています。日本人だけでなく外国人も。阿蘇は世界中の人を惹きつける魅力的な場所です。その素晴らしい自然を維持していくために、阿蘇では昔から野焼きというものが行われています。野焼きという言葉は小さい頃からよく耳にしていたけれども、それがどのように行われているのかはあまり知りませんでした。そんな私に今年の三月、野焼きを体験する機会が訪れました。実際に体験してみると、想像以上に危険で

大変でした。まず干し草を束ねて、それに火を点け、山の草に火を移します。そして干し草の束で火を広げていきます。山に広がった火はたちまち人の何倍もの高さになり、少し近づいただけでも、まるで全身に火を被っているかのようなでした。息も十分にできず目を開けるのも辛いものでした。風向きを考えて移動しないと火が自分の方へ向かって移ります。気を張っていないと、いつ火に襲われるか分からない状況でした。その時は、私はボランティアとして、二時間という短い間の体験でしたが、それでもどっと疲れてしまいました。しかし実際はさらに広い面積を少ない人数で行わなければならないかもしれません。



私が当たり前前にあると思っていた山は、危険と隣り合わせになりながらも、野焼きをしてくれる人がいるからこそあるのだと分かりました。もし野焼きをしなれば自然のサイクルは崩れてしまい、私達の生活にも影響を及ぼします。だから、今ある自然は当たり前前だと思つてはいけません。誰かの努力があるから、私は恵まれた環境の中で暮らすことができている。阿蘇は自然だけではなく、影で支えてくれる人々も世界に誇れることのできるものだと思います。

私に訪れたのは、阿蘇の自然を体験する機会が訪れました。実際に体験してみると、想像以上に危険で



2010年世界農林業センサスにご協力ください

平成22年2月1日現在で、全国一斉に『農林業の国勢調査』といわれる世界農林業センサスが実施されます。

この調査は、今後の農林業の政策に役立てるために5年毎に実施される極めて重要な調査です。

1月下旬から農林業を営む皆様のところへ、調査員証(顔写真付)を携行した調査員が訪問して、調査票に農林業の経営状況などの記入をお願いします。

どうぞ皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

農林水産省ホームページ(統計情報) <http://www.maff.go.jp/j/tokei/>



【問い合わせ先】

熊本県統計調査課 ☎096-333-2179  
阿蘇市企画振興課 ☎22-3169